



アフリカ開発への軌跡

パートナーシップとリスクの低減により
民間投融資を新たな規模で動員



Copyright © IFC, 2016.

All rights reserved

IFC
2121 Pennsylvania Ave NW, Washington DC, 20433, USA
Website: www.ifc.org

DISCLAIMER

IFC, a member of the World Bank Group, creates opportunity for people to escape poverty and improve their lives. We foster sustainable economic growth in developing countries by supporting private sector development, mobilizing private capital, and providing advisory and risk mitigation services to businesses and governments. This report was commissioned by IFC through its Sub-Saharan Africa department and the Office of the Chief Economist.

The conclusions and judgments contained in this report should not be attributed to, and do not necessarily represent the views of, IFC, or its Board of Directors or the World Bank or its Executive Directors, or the countries they represent. IFC and the World Bank do not guarantee the accuracy of the data in this publication and accept no responsibility for any consequences of their use.

Extracts from this report may be freely reproduced for non-profit purposes, with acknowledgment to IFC. Users who wish to further adapt this report should contact IFC.

アフリカ開発への軌跡

パートナーシップとリスクの低減により
民間投融資を新たな規模で動員



序文

私たちは今、貧困の撲滅、気候変動への対応、すべての人々の繁栄の実現という大きな課題を抱えています。この課題を解決するには巨額の投資、一世代にわたる創意工夫、そして持続的な経済成長が欠かせません。民間企業と市場が繁栄していなければこれらはどれ1つとして実現できないでしょう。

アフリカでは民間セクターの役割が特に重要で、本レポートではその点に焦点を当てていきます。アフリカの人口は2030年に17億人に増加すると予想されています。そして2050年までに24億人に増え、これは将来の世界人口の4分の1に相当します。アフリカの成長と急速な都市化に伴い、電力や港、道路、鉄道など、さらに多くのサービスや基礎的インフラが必要になります。世界銀行グループによると、アフリカのインフラ投資に必要な額は年間450億ドル以上と推定されます。

雇用を創出し、増加し続けるアフリカの若者が求める高い生活水準を提供できるのは、安定した民間セクターだけです。

とはいえ、障害は数多く存在します。紛争の影響を強く受ける最貧国では、民間市場はほとんど存在しないに等しく、開発が遅々として進みません。民間市場を創出し活性化しなければなりません、そのためには民間投資を引き付け投資家のリスクを軽減できる新しいタイプの金融商品が必要になります。

本レポートでは、投資家のリスク不安を解消し、より積極的な投融資につなげて経済に好影響を与えるために投資家や政府、現地企業、ドナー、そして個人がどのように協力しているかを紹介します。

ここで1つの例を考えましょう。世界銀行グループのScaling Solar プログラムは、政府手続きの簡素化と低価格



を通してサブサハラ・アフリカにおける大規模太陽光発電所の開発を支援しています。これにより、政府は民間出資の太陽光発電施設を迅速かつ透明な形で、しかも最低水準の料金で調達することが可能です。一方、民間の開発業者には、アドバイス、リスク管理、融資と保険をオールインワンのパッケージとして利用できるというメリットがあります。

これまでのところ、マダガスカル、セネガル、ザンビアの3カ国が参加しており、大手企業数十社が単独では難しい太陽光発電所の建設チャンスを掴もうと競い合っています。同プログラム初の入札が今年ザンビアで実施され、1キロワット時当たりわずか6セントと、太陽光発電としてはアフリカ史上最安値を付けました。電気を使用できるのは人口のわずか5分の1という国で、消費者はようやく安価な再生可能エネルギー源を手に入れることになります。

IFC には、最も困難な環境で民間企業を育成、支援してきた実績があります。本レポートが、政府やドナー・パートナー、民間セクターによる新たな方法での協業を後押しすることを期待しています。

私たちは、協力し合うことでさらに多くのことを成し遂げられるのです。

Philippe Le Houérou
IFC 長官
2016 年8月

概要

2015年、世界の国々は貧困の撲滅、地球環境の保護、および新たな持続可能な開発アジェンダを通して繁栄を分かち合うという、「持続可能な開発目標」に署名しました。アフリカでこれらの目標を達成するには、基礎的なインフラ、農業および農村地帯の開発、気候変動の軽減と適応、医療、教育への投資が極めて必要とされています。

多くの場合、公共投資およびドナー投資と合わせて民間投資も行われます。また、これに加えて、特に民間セクターを専門とする国際的な金融機関から資金調達を行うことにより、ブレンド型融資、プール型融資、リスク低減を通じた追加資金を引き出すことが可能です。これは、特に民間セクターの開発を支援するインフラその他の投資について当てはまります。ドナーと民間投資家はお互いに協力することの利点をますます認識しています。

今は絶好のタイミングです。アフリカは民間投資家にとって非常に大きな可能性を秘めています。アフリカは過渡期の大陸であり、世界で最も成長率の高い地域の一つです。急拡大する都市部では若年人口が増え続け、ビジネス環境は改善されつつあります。インターネット接続は拡大し、所得は増加し、消費パターンも変化してきています。足元では経済的・政治的課題があるとはいえ、こうした傾向はアフリカ全域で豊富なビジネスチャンスを創出し、投資家が無視することのできない市場へと変貌させているのです。

昨今の世界経済の混乱が始まる前でさえ、アフリカ大陸では構造的な障害、リスク軽減メカニズムの欠如、融資の選択肢の少なさによって大規模・長期プロジェクトに伴うリスクの効果的な分散と軽減が阻害され、投資家活動が制約されていました。

急速に変化する市場におけるビジネスチャンス

アフリカ大陸は現在ほとんどの国・地域が直面している経済の短期的な逆風に左右されやすく、状況の変化によって一部のビジネスチャンスが消滅しつつあります。アフリカの貿易と経済成長は中国の成長鈍化の影響を受け、その一方で商品価格の急落と現地通貨安が企業と政府の悩みの種となっています。一次産品純輸出国である多くのアフリカ諸国は、商品価格の下落によって大きな打撃を受けており、経常収支と財政収支に圧力を加えています。多くのアフリカ諸国は成長し続けていますが、こうした世界的な経済トレンドの影響がアフリカでのビジネス・コストを押し上げ、生産性と成長を阻害しています。

アフリカの短期的な成長見通しが下方修正されていますが、同地域への投融資に際しての資金調達の問題を解決し得る幅広いパートナーの存在など、アフリカへの投融資を後押しする要因はやはりあります。注目すべきトレンドは次の通りです。

- ・サブサハラ・アフリカ（サハラ砂漠の南の地域）では、経済成長率が2014年の4.5%から2015年には3.0%へと低下しました。国際商品価格の下落により2016年にはさらに2.5%まで鈍化すると予想されるものの、2017～2018年にかけて平均4.1%へと上昇する見通しです。これは、アンゴラや南アフリカ、ナイジェリアといったアフリカ最大級の国々の一部で経済が好転することを示唆しています。
- ・北アフリカでは、エジプト、モロッコ、チュニジアの平均成長率も2015年の2.9%から2016年に2.4%へと鈍化する見通しです。とはいえ、北アフリカ最大の経済圏であるチュニジアとエジプトの成長率は2017年に持ち直す

と予想されています。

- ・1人当たりの推定成長率は、エチオピア（6.0%）、ルワンダ（4.6%）、コートジボワール（4.6%）、タンザニア（3.6%）など、アフリカ諸国が他の発展途上国より高くなっています（2010～2020年の平均成長率）。
- ・若年人口の増加と急速な都市化により、個人消費は衣料品、通信、エネルギー、金融サービス、食料品、医療、住宅、輸送といった主要セクターで増加し続けると予想されます。北アフリカでは教育支出が特に重要になり、増加の一途をたどると予想されています。
- ・サブサハラ・アフリカ単独で見てもインフラ投資として年間900億ドル以上を生産的に活用できるとみられますが、現在の投資額はその半分にも届いていません。ナイジェリア、アンゴラ、ケニアはエネルギー、輸送、物流への投資は効果とリターンの両面で最も潜在的効果が見込まれるのに対し、今後の投資不足はこれらの国々で特に深刻な問題になると予想されています。
- ・気候変動に適應するための地域全体の支出は、官民の資金源で年間50～100億ドルと予想されています。環境問題の中でも、気温上昇と水供給の問題は、低炭素エネルギー源の拡大と水資源管理の効率化という視点からの投資機会となっています。

このように、アフリカ全体でポジティブな構造的トレンドが継続する一方で、最近の世界経済の波を受けることにより、程度の差こそあれ国や地域によってそのトレンドが相殺されています。突如として先行きが見えなくなる流動性の低い市場にあって、持続可能な成長と開発に貢献したいと考えるドナーや開発資金提供機関、民間セクターの参加者にとっての問題は「民間セクターの開発を可能にするための資金集めとリスク軽減にどのような方法が利用できるのか」ということです。

官民の融資を動員

アフリカでのビジネスチャンスを求める企業は、追加的な資金源に加え、民間セクターからより多くの参加者を引き付けてさまざまな投資家クラスでリスクを長期間に分散する手段を取ることも可能になっています。アフリカでは、所得が低く脆弱な国への投資リスクを低減させる新たな手

法として、ブレンド型融資、共同投資、気候関連融資、現地通貨建て融資・株式投資、プライベート・エクイティ、官民パートナーシップなどの手段が利用できるようになっています。成長を加速し、繁栄の共有を促進するため、商業融資と並行して、民間企業に対する条件や投資が開発に及ぼす影響の改善を目的とした助言を行うため公的な資金や支援を利用することも可能です。これらの手段は、高成長を続けるアフリカ市場でビジネスチャンスの規模に合った融資を確保し、新旧のリスクを管理する斬新な経路を提供します。

アフリカには投資の成功を保証するさまざまな方法が存在します。今後リスクが一層高まれば、これらの方法はますます重要になるはずです。

- ・ **官民パートナーシップ**は、民間投資家が安心して参加するために必要で適切な法的枠組み、セクター設計、サービスと商品の最終的な引き取り手として優良なオペレーターを備えたプロジェクトに適した戦略です。民間・公共セクターが協力してこれらの要素を提供するに当たっては、多くの場合は開発機関が重要な役割を担います。
- ・ 民間投資家と開発金融機関による**共同投資**は、双方の強みを持ち寄ることで信頼感を醸成し、民間の出資者と民間の商業銀行の枠を超えてリスクを分散させます。
- ・ **ブレンド型融資**は、通常はドナー・パートナーから出資される譲許的資金、商業銀行、民間投資家の資金をリスク共有の観点で組み合わせる手法で、民間資金を使いながら可能な限り公的支援を活用するよう各参加者を動機付けます。
- ・ **気候関連融資**は、新興市場における温暖化対策投資を支援するため官民の資金源を併用する手法であり、ブレンド型融資や地場金融機関への支援、特定目的の債券の発行、資産管理を含む複数のチャネルを使用します。
- ・ **現地の資本市場とテイラード・ソリューション**（ニーズに合わせて構築されたソリューション）は、現地通貨建ての長期融資を利用して経済を資本流入の変動から保護し、外国債への依存を減らすのに有効な手法です。大手銀行や開発金融機関がリスク保証を提供するかア

ンカー投資家として機能する場合、現地企業は地方債市場と株式市場をうまく活用し、追加の資金調達手段を利用したり新たな投資家層を呼び込むことができます。また、他の通貨リスクと市場ボラティリティについても、ニーズに合わせて構築されたソリューションと手段を利用して対処することが可能です。

- ・ **プライベート・エクイティ**は、アンカー投資家の支援を通して、中小規模の企業を含むさまざまな企業に投資可能な大規模特化型ファンドを組成できます。なお、開発金融機関は、世界の機関投資家によるアフリカ企業の株式の取得を資産管理などの手段を通じてサポートすることができます。

ケーススタディ

多国籍企業、各国政府、ドナーからの支援により最近資金調達を行った民間セクター・プロジェクトの成功例（アフリカ各地における事例）

CEC Africa Power: 世界銀行グループは、10年に及ぶ内戦と最近のエボラ出血熱からなお回復途上にあるシエラレオネのために、同グループの金融商品と助言サービスをパッケージ化しました。この結果、フリータウンの東約4 km に位置する工業地帯に1億3,400万ドルを投じた発電所が2016年に稼働しました。この発電所では、CEC Africa Investments が資金を提供する57メガワットの石油火力発電所が開発、建設、運転されることになっています。

Azura-Edo 電力プロジェクト: 世界銀行グループは、ナイジェリアの推定1,400万人に電力を届ける未開発地域開発プロジェクト、ガス火力発電所 Azura を支援するため、商業銀行と開発金融機関を含む10数社あまりの金融機関と協力しました。Azura はナイジェリア初の民間投融資による独立系電力プロジェクトであり、生活に不可欠な電力の供給と低炭素経済への移行を両立させるため、同国に埋蔵されている天然ガス（クリーンエネルギーへの橋渡しの燃料）を使用します。

Azito 3: 9つの開発金融機関が協力し、コートジボワールで139メガワットの発電所の拡張工事を起工するのに必要な3億4,500万ドルの長期融資を提供するとともに、必要な規制改革を遂行しました。



ENDA Inter Arabe: チュニジアの大手マイクロファイナンス機関 ENDA は、正規の金融システムから排除されている人々が必要とする金融サービスを受けられるようにし、これにより同国の経済発展と貧困撲滅に貢献しています。IFC は、リスク管理・プロダクト戦略・変革からなる包括的なキャパシティ・ビルディング・プログラムを通じて ENDA を支援してきました。

Bridge International Academies: 学校法人が開発金融機関および新規投資家とパートナーシップを組み、6,000万ドルを投じて学費負担の少ない私立学校グループ展開をケニア以外の3カ国に拡大しました。このパートナーシップは規制に関する支援とシード投資を提供しました。

Africa Improved Food Holdings: 慢性的な栄養失調の解消を目指すプロジェクトで、オランダの多国籍企業 DSM がルワンダに初期投資6,000万ドルを要する栄養食品加工工場を設立しました。これはリスクの高い野心的なプロジェクトであり、信頼できる出資者と政府の迅速な対

応によりリスクを軽減する必要がありました。原材料と最終製品に対し、調達・供給・オフテイカーの取り決めをしっかりと行う必要がありました。

Scaling Solar と KaXu Solar One: Scaling Solar は、電力を安定的かつ競争力のある料金で早期に提供するため、世界銀行グループの専門知識を活用した民間出資によるグリッド接続型太陽光プロジェクトを実施しています。プロジェクトはリスクとコスト、料金を低減する競争力の高いプロセスに構造化・標準化されており、投資家はプロジェクトから利益を享受しています。ザンビアは同プログラムに最初に参加した国であり、第1回目の入札では太陽光発電としてアフリカ史上最安値が提示されました。再生可能エネルギーを奨励する南アフリカのプログラムに基づく KaXu Solar One は、蓄熱設備を備えた大規模集約型太陽光発電施設であり、この種の発電所としては新興市場で操業を始めた最初の事例となりました。

Cargill/SIB と Cameroon Agriculture: アグリビジ



ネス大手の Cargill とコートジボワールの SIB 銀行は IFC とパートナーシップを組み、農場から協同組合まで生産物をより効率的に運搬できる車両の購入資金を求めているココア農家に対し、600万ドルのリスク共有ファシリティを通じて融資を行いました。同様に、カメルーンでも Banque Internationale du Cameroun pour l'Epargne et le Cr dit が世界銀行と IFC の合同プログラムを通して830万ドルのリスク共有ファシリティに参加し、2つのソルガム生産者組合による Guinness Cameroon 向けソルガム加工工場の買収を支援しました。

Ecobank Transnational: アフリカ全域で事業を行う Ecobank Transnational 銀行は、脆弱性と低所得の観点で特に厳しい経済環境にあるアフリカの8カ国で小規模企業への融資を拡大しました。このプロジェクトは Ecobank と開発銀行2行の間で締結した1億1,000万ドルのリスク共有ファシリティを活用しています。

Rawbank: 2002年に設立された Rawbank は、停滞市場のイノベーターです。創業家は1922年からコンゴ民主共和国で事業を営んでおり、同行はその技術とビジネス感覚を取り入れ、最近では競合他行を抜いて同国最大の銀行になりました。IFC は Rawbank の貸出拡大を支援するため2,200万ドルの融資と助言サービスを合わせて提供しており、そこで鍵となったのがドナーでした。

Kenya Tea Development Agency: 2016年、IFC と Kenya Tea Development Agency (KTDA) はある大手企業のドナーの支援を得て、小規模茶農家の生産性とビジネススキルの改善、および KTDA のバイオマス燃料サプライチェーンの4年計画での強化を目的に、新たに4億2,000万ケニアシリング(約420万ドル)のイニシアティブを立ち上げました。今後、協同組合の成長支援に向けて複数回の融資が行われる予定です。

Al Tadamun マイクロファイナンス基金: Al Tadamun は、IFC のドナーの資金に基づく助言により、互助グループへの貸付制度(共同責任を持つ互助グループに貸し付ける仕組み)を利用することで都市部の女性起業家に特化した融資を拡大することができました。これは通常であれば女性であることと低所得を理由に正規の金融サービスを受けられない小規模企業セグメント(低所得の女性)に役立っています。

Bayport Financial Services: ザンビア最大のマイクロファイナンス事業者である Bayport Financial Services は、ドナーが求める証券市場が新たに機能し始めたことによる恩恵を受けています。同社は、低・中所得層の借り手と小規模事業者への融資を拡大するため中期債を初めて発行し、1億7,200万クワチャ(約2,650万ドル)を調達しました。発行に際しては、開発金融機関がアンカー投資を提供して支援しました。

GLS Liberia と SME Ventures: 地元資本による物流会社であり、エボラ危機の際、エボラ出血熱に対する国家を挙げた防衛行動で重要な役割を果たしました。GLS Liberia は空港から国内全域の拠点にいつでも積み荷を輸送できるだけの車両と物流ネットワークを保有し、これが危機の影響緩和に役立ちました。同社は、SME Ventures の出資により現地で運用されるリスク資本の支援を受けています。SME Ventures は IFC のプログラムの一つであり、世界で最も難しい市場で素晴らしい将来性を秘めた中小企業の足かせとなっている重要な資金面と事業面の課題のいくつかに対処することを目的に設計されています。

Tanzania Interoperability Standards: タンザニアは相互運用性を備えたモバイル金融サービス取引に関する標準的なビジネス・ルールの開発と実施に成功した最初の国となりました。これにより異なるモバイル通信事業者の契約者間における電子マネー取引が可能になり、当該プロセスにおいては、Bill & Melinda Gates 財団および Financial Sector Deepening Trust of Tanzania の支援を受け、IFC がファシリテーターの役割を担いました。



Project Team

REPORT PROJECT MANAGEMENT

Desmond Dodd, Arthur Karlin

EDITOR

Matt Benjamin

PRIMARY CONTRIBUTORS

Lin Shi, Tomoko Suzuki

CONTENT ADVISORS

Regional

Mouayed Makhoul, Oumar Seydi, Vera Songwe

Economics and Strategy

Ted Haoquan Chu, Frank Douamba, Rapti Goonesekere,
Neil Gregory, Jean Pierre Lacombe

Financial Institutions Group, and Finance and Markets

Alejandro Alvarez de la Campa, Allen Forlemu, Riadh Naouar,
Aliou Maiga, H. John Wilson

Infrastructure and Natural Resources

Bertrand de la Borde, Linda Munyengeterwa

Manufacturing, Agribusiness, and Services

Samuel Dzotele, Aida Kimemia, Mary Jean Moyo
Judy Ombura

Trade and Competitiveness

David Bridgman, Catherine Masinde, Maiko Miyake

Treasury

Martin Habel

Acknowledgment

Saran Kebet-Koulibaly

CONTRIBUTORS

Betsy Alley, Oualid Ammar, Ejura Audu, Jonas Ayeri,
Yaa Boakye, Eva Bakonyi, Raffaele Boldracchi, Michel
Botzung, Florence Boupda, Giuliano Caloia, Vanya Candia,
Brian Casabianca, Yasser Charafi, Omar Chaudry, Silven
Chikengezha, Dan Croft, Joumana Cobein, Fatou Diop,
Jim Emery, Coura Fall, Jamie Ferguson, Britt Gwinner, Bill
Haworth, David Ivanovic, Tor Jansson, Sylvain Kakou, Emi
Kitasako, Mohammed Khaled, Rashmi Kharbanda, Yosuke
Kotsuji, Maria Kozloski, Lisbet Kugler, Josiane Kwenda,
Matthew Leonard, Douglas Lister, Monish Mahurkar,
Dramane Meite, Alben Melin, Biju Mohandas, Bushra
Mohammad, Gene Moses, Riham Mustafa, Kalyan N.
Neelamraju, Wawa Nkosi Donald Nzorubara, Nahla El-
Okdah, Jane Onoka, Jordan Pace, Sean Petersen, Cecile
Puiggali, Joe Rebello, Juliette Rose, Yakhara Sembene, Janne
Sevanto, Luba Shara, Zibu Sibanda, Wilfried Tamegnon,
Wendy Teleki, Richard Warugongo Tracy Washington,

TEAM SUPPORT

Busi Leokane, Yasue Sakuramoto, Jacqueline Santos



IFC

2121 Pennsylvania Ave., N.W.
Washington, DC 20433
USA
Tel: +1 202 458-9699

Sub-Saharan Africa Hub Offices

SENEGAL, Dakar

Rue Aime Cesaire x
Impasse FN 18
Fann Residence
P.O. Box 3296
Dakar, Senegal

Tel: +221 33 859-7100
Fax: +221 33 849-7144

SOUTH AFRICA, Johannesburg

14 Fricker Road
Illovo 2196
P.O. Box 41283
Craigshall 2024
Johannesburg, South Africa

Tel: +27 11 731-3000
Fax: +27 11 268-0074

KENYA, Nairobi

Delta Center
Menengai Road
Upper Hill
P.O. Box 30577-00100
Nairobi, Kenya

Tel: +254 20 293-7000/7200
Fax: +254 20 293-7210

IFC has offices in more than 20 countries across Sub-Saharan Africa. Find contacts on the IFC website.

www.ifc.org

Stay Connected

www.facebook.com/IFCwbw and www.facebook.com/IFCAfrica

www.twitter.com/IFC_org and www.twitter.com/IFCAfrica

www.youtube.com/IFCvideocasts

www.ifc.org/SocialMediaIndex

